平成 27 年度ＣＯＣ事業フォローアップアンケート

文部科学省は各大学が実施する「地（知）の拠点整備事業」のフォローアップの１つとして平成 26 年度事業分からアンケートを実施している。そのアンケートに合わせて、本年度も「平成 27 年度フォローアップアンケート」を実施した。

アンケート調査項目には【教育活動の状況】、【連携自治体からの支援の状況】および【連携自治体や企業等からの相談状況】と【当該大学等の全学生を対象に実施】、【当該大学等の全教員を対象に実施】および【当該大学等の全職員を対象に実施】する項目があり、調査項目には文部科学省統一指標と各大学が独自に加えることができる項目があった。

ここでは、文部科学省統一指標項目の結果に加え、全学生、全教員および全職員を対象にして行ったアンケート調査について、ページ数の関係で回答結果のみを示した。

なお、アンケートは鹿児島大学学術情報基盤センターの協力を得て、平成 28 年 5 月 9 日（月）～5 月 18 日（水）に Web で行った。

（１） 文部科学省統一指標

アンケート対象者（基礎データ）

全学生数	9025
有効回答数	1486
回収率	16.5%
全教員	1159
有効回答数	451
回収率	38.9%
全職員（）医療系を除く	581
有効回答数	282
回収率	48.5%
全連携自治体	4
有効回答数	4
回収率	100.0%

【教育活動の状況】

1．地域志向科目※を何科目設置していますか。現在開設している科目数と、平成27年度新規に開設した科目数をそれぞれお答えください。

現在開設している科目数	29	科目
うち、平成27年度新規に開設した科目数	0	科目

2．地域志向科目にアクティブラーニングを導入している科目を何科目開設していますか。

アクティブラーニングの科目数	16	科目
当該科目の履修者数（実数）①	2324	人
当該科目の履修者数の全学生に対する割合（当該科目の履修者数①／全学生数）	25.75	%

【連携自治体等からの支援の状況】

1. 大学COC事業を進めるにあたり、連携する自治体や企業等とのコストシェアの状況についてお答えください。

①人的支援について

	教員		職員	その他
	教授	准教授		
自治体	1人	1人	1人	54人
企業等				9人

②物的支援について

自治体	①地域志向教育研究成果発表会場の無償提供 ②地域志向教育研究経費助成事業の実施に必要な施設の無償提供
企業等	

【連携自治体や企業等からの相談状況】

地域との連携強化に資する組織により（又は当該組織を通じて）連携自治体や企業から受けた相談件数をお答えください。

連携自治体からの相談件数	114	件
鹿児島県	36	件
鹿児島市	74	件
薩摩川内市	2	件
与論町	2	件

企業等からの相談件数	145	件
うち、大企業	2	件
うち、中小企業	131	件
うち、小規模企業	2	件
うち、その他	10	件

【アンケート調査結果】

（１）学生に対するアンケート調査結果

学生に対するアンケート調査結果については、以下に示した。アンケート回答者は平成 28 年度から開講した全学必修科目の「大学と地域」の前記受講学部である法文学部、理学部、工学部で高く、かつ受講対象学年である１年生で高くなった。

問１　あなたの所属学部、学年等についてお教えください。

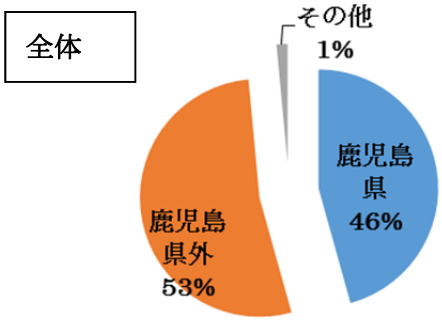
問1　平成27年度フォローアップアンケートの基本データ（学生数、該当者数、回答率など）

学部	学生数	休学者数	在籍者数	回答者数							回答率
				1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合計	
法文学部	1765	38	1727	244	54	56	50			404	23.4
教育学部	1206	29	1177	46	27	25	43			141	12.0
理学部	814	10	804	104	21	15	11			151	18.8
医学部（医学科）	710	3	707	18	12	26	19	8	21	104	14.7
医学部（保健学科）	500	9	491	24	11	14	11			60	12.2
歯学部	320	8	312	12	12	6	6	10	9	55	17.6
工学部	2030	36	1994	260	31	34	30			355	17.8
農学部	929	10	919	40	48	44	19	7	5	163	17.7
水産学部	592	7	585	14	2	5	2			23	3.9
共同獣医学部	159	2	157	5	12	2	9	2		30	19.1
計	9025	152	8873	767	230	227	200	27	35	1486	16.7

問２　あなたの出身（出生地）について、当てはまるもの１つを選んでください。

問2　回答者の出身県

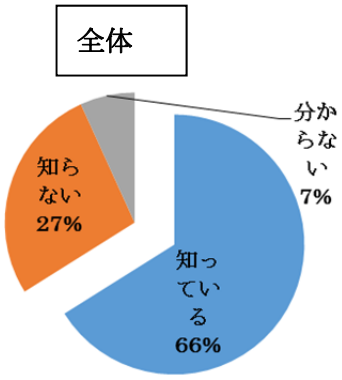
学部	鹿児島県	鹿児島県外	その他	合計
法文学部	227	169	8	404
教育学部	86	54	1	141
理学部	43	106	2	151
医学部（医学科）	52	52	0	104
医学部（保健学科）	35	24	1	60
歯学部	20	34	1	55
工学部	142	207	6	355
農学部	56	105	2	163
水産学部	4	19	0	23
共同獣医学部	14	15	1	30
計	679	785	22	1486



問３　鹿児島大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。

問３　鹿児島大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。

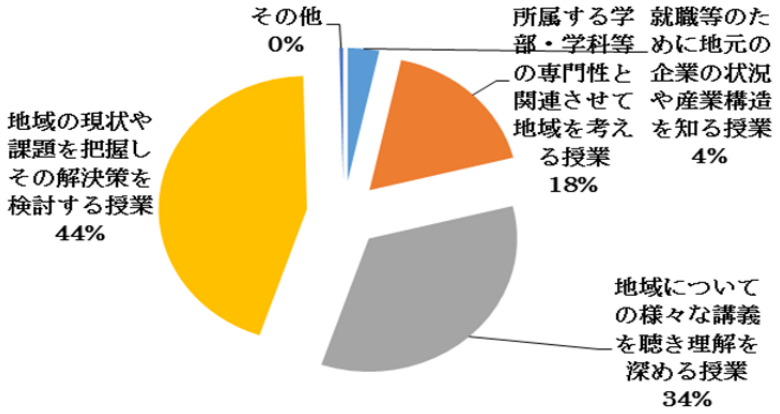
学部	知っている	知らない	分からない	合計
法文学部	276	100	28	404
教育学部	73	56	12	141
理学部	112	30	9	151
医学部（医学科）	78	24	2	104
医学部（保健学科）	43	12	5	60
歯学部	32	15	8	55
工学部	228	101	26	355
農学部	109	44	10	163
水産学部	17	6	0	23
共同獣医学部	14	15	1	30
計	982	403	101	1486



問４　「大学が地域のために実施する授業科目」という言葉から、どのような授業をイメージしますか。あなたのイメージに最も近いものを選んでください。

問4 「大学が地域のために実施する授業科目」という言葉から、どのような授業をイメージしますか。あなたのイメージに最も近いものを選んでください。

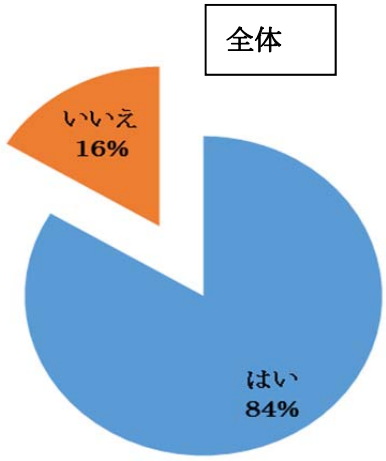
学部	就職等のために地元の企業の状況や産業構造を知る授業	所属する学部・学科等の専門性と関連させて地域を考える授業	地域についての様々な講義を聴き理解を深める授業	地域の現状や課題を把握しその解決策を検討する授業	その他	計
法文学部	12	54	122	214	2	404
教育学部	5	27	52	57	0	141
理学部	4	35	48	62	2	151
医学部（医学科）	0	17	43	44	0	104
医学部（保健学科	4	14	21	21	0	60
歯学部	2	10	21	22	0	55
工学部	19	57	141	136	2	355
農学部	4	33	50	76	0	163
水産学部	0	6	2	15	0	23
共同獣医学部	1	9	7	13	0	30
計	51	262	507	660	6	1486



問５　鹿児島大学が「地域のための大学」として実施する授業科目（下表参照）を受講したことがありますか。

問5　鹿児島大学が「地域のための大学」として実施する授業科目（下表参照）を受講したことがありますか。

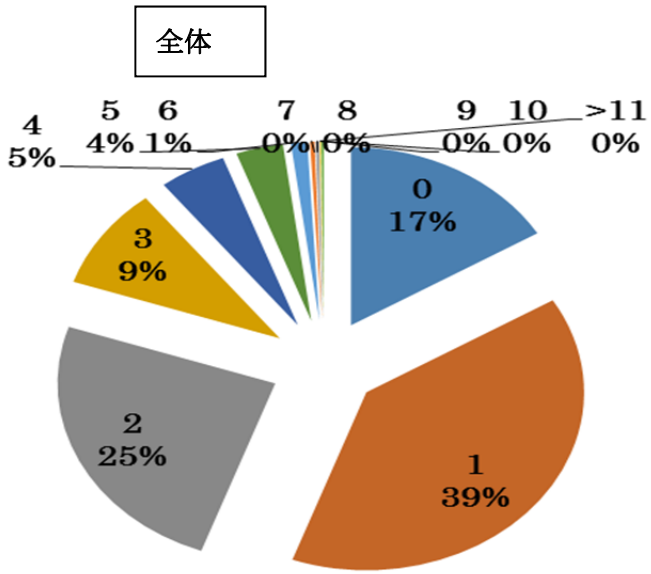
学部	はい	いいえ	計
法文学部	346	58	404
教育学部	96	45	141
理学部	121	30	151
医学部（医学科）	89	15	104
医学部（保健学科）	42	18	60
歯学部	46	9	55
工学部	323	32	355
農学部	136	27	163
水産学部	17	6	23
共同獣医学部	27	3	30
計	1243	243	1486

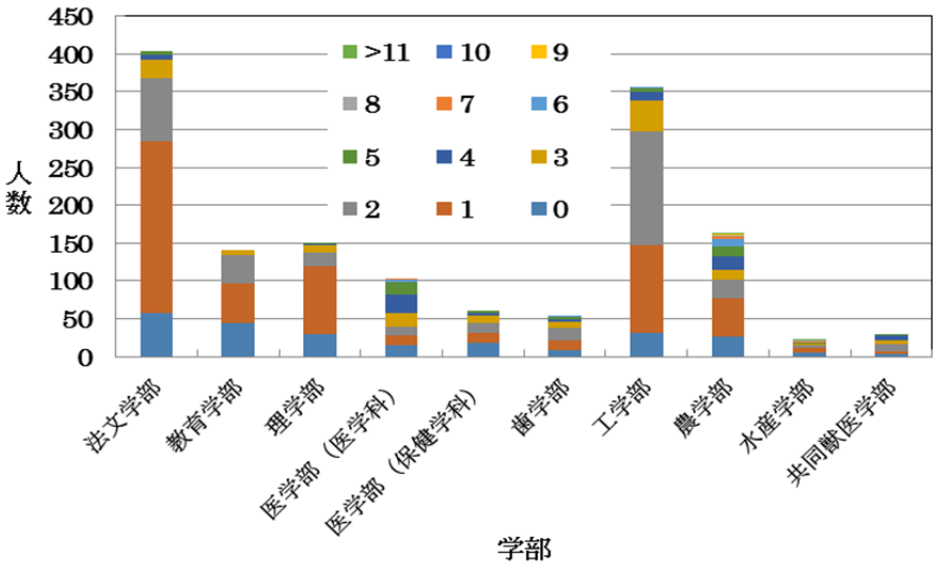


問６　「地域のための大学」として実施する授業科目のうち、受講したことがある科目数を選択してください。

問6 「地域のための大学」として実施する授業科目のうち、受講したことがある科目数を選択してください。

学部	0	1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11以上
法文学部	58	227	82	25	6	6						
教育学部	45	51	39	6								
理学部	30	89	18	11	1	2						
医学部（医学科）	15	13	11	18	25	16	4	2				
医学部（保健学科）	18	14	13	9	4	2						
歯学部	9	13	16	8	4	3	2					
工学部	32	115	150	41	11	5	1					
農学部	27	50	24	14	17	14	10	2	3	1		1
水産学部	6	6	3	1		2	1	1	1			2
共同獣医学部	3	4	10	5	6	2						
計	243	582	366	138	74	52	18	5	4	1	0	3

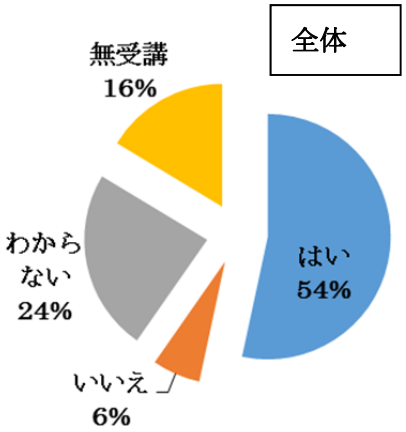




問７　上記科目を受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力は深まりましたか。

問7　上記科目を受講した結果、課題を含めた地域の現状を把握するとともに、地域の課題解決に役立つ知識・理解・能力は深まりましたか。

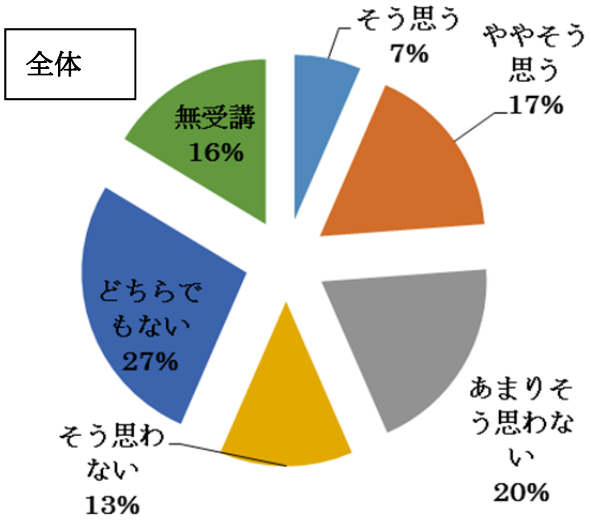
学部	はい	いいえ	わからない	無受講	計
法文学部	224	20	102	58	404
教育学部	70	10	16	45	141
理学部	75	4	42	30	151
医学部（医学科）	55	12	22	15	104
医学部（保健学科）	27	4	11	18	60
歯学部	35	5	6	9	55
工学部	186	27	110	32	355
農学部	98	8	30	27	163
水産学部	8	1	8	6	23
共同獣医学部	15	3	9	3	30
計	793	94	356	243	1486



問８　上記科目の受講が、鹿児島県の企業や自治体等に就職しようとするきっかけになりましたか。

問8　上記科目の受講が、鹿児島県の企業や自治体等に就職しようとするきっかけになりましたか。

学部	そう思う	ややそう思う	あまりそう思わない	そう思わない	どちらでもない	無受講	計
法文学部	29	74	88	43	112	58	404
教育学部	8	20	26	14	28	45	141
理学部	6	21	29	22	43	30	151
医学部（医学科）	5	12	21	21	30	15	104
医学部（保健学科）		12	11	3	16	18	60
歯学部	3	6	9	12	16	9	55
工学部	29	72	67	54	101	32	355
農学部	12	32	33	17	42	27	163
水産学部	1	3	4	5	4	6	23
共同獣医学部	4	5	4	3	11	3	30
計	97	257	292	194	403	243	1486



問９　その知識・理解・能力を今後どのように活かしていきたいと思いますか。 例） 地域活性化のイベント等に積極的に参加しようと思う、地域の企業等に就職し、知識を還元しようと思う、何も変わらないなど（自由記述、抜粋、総数 556 件）

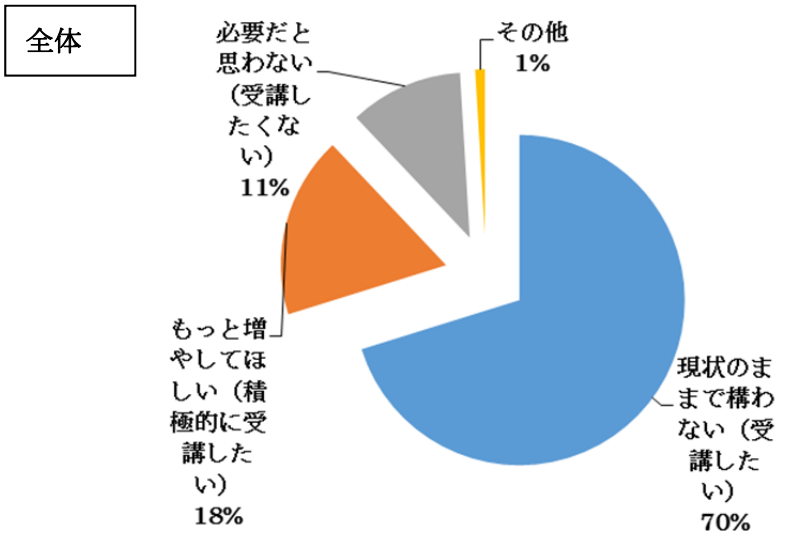
・地域のイベントやボランティア活動に参加し、積極的に地域の活性化に貢献したい。
・身に付けた知識などを活かして、地元に就職して少しでも助けになるようにしたい。
・防災学等の知識は、教員になれた際などにも生かしたいと思っている。
・地域密着型という課題を元に就職後、より人のためにどうするべきかの参考にしていきたい
・鹿児島について他人に尋ねられたときに、色々なことを正しくアピールできるようにしたい
・これから 4 年間鹿児島で暮らしていく上での糧にしていこうと思う

・離島や山間地域の医療不足の現状を知り、何か解決策を考えたいと思った
・鹿児島ら雄大な自然に囲まれ、常に自然災害と隣合わせなので普段から防災や災害対策を意識して生活しようと思う
・鹿児島県以外の場所でも、鹿児島県の魅力を発信しようと思う。

問１０　あなたは「地域のための大学」として実施する授業科目についてどのような考えを持っていますか。

問10　あなたは「地域のための大学」として実施する授業科目についてどのような考えを持っていますか。

学部	現状のままで構わない（受講したい）	もっと増やしてほしい（積極的に受講したい）	必要だと思わない（受講したくない）	その他	合計
法文学部	289	63	49	3	404
教育学部	84	47	10	0	141
理学部	103	24	21	3	151
医学部（医学科）	75	17	8	4	104
医学部（保健学科）	43	9	7	1	60
歯学部	37	12	6	0	55
工学部	255	40	58	2	355
農学部	112	46	4	1	163
水産学部	19	4	0	0	23
共同獣医学部	26	2	2	0	30
計	1043	264	165	14	1486



問１１　あなたは「地域のための大学」として実施する授業科目についてどのような考えを持っていますか。　（自由記述、抜粋、総数 16 件）

・取り組みはとてもよいと思うが、やることが漠然としていて結果的に何がしたいのかがよくわからない。
・必須科目であるにも関わらず、授業の時間帯が重なり、抽選もあり、本当に興味のある別の科目をとることができなかったため、そこが改善されれば、取りたいが、改善されない限り取りたくはない。
・受講したい人だけ受講すれば良い
・必修科目として増やしても構わないが、視点がこじんまりとするのはよくないと思う。鹿児島だけを取り上げるのではなく、その他の国や地域もピックアップして広く考えるべき。
・実際にその場に赴く機会を設ける実習時間があるような授業が一番効果があると思う
・受けやすい環境がほしい
・授業の質、教授の質による。私が受けてきた共通教育はどれもつまらなく、時間の無駄とも思えるような授業だった。鹿児島の再発見を生徒から自発的に促せるような授業にして貰いたい。
・内容としてより専門性を高めた授業や、より若手実業家による授業があると嬉しいです。

問１２　あなたは「地域のための大学」としてどのような授業科目があればいいと思いますか。授業で取り扱われるテーマや授業方法など、具体的にご記述ください（自由記述、抜粋、総数 698 件）。

・生まれ育った地域について知り、その魅力を他の人に伝える授業を行うことにより、地域医療の充実に繋げることができると思う。
・実際に現場を見に行き、地域の人と関わることのできる課外授業
・その地域出身の著名人について学ぶ授業。1 コマ 1 人くらいのペースである人物について学び、たまに実際に著名人自身が出向いて講演を行う。
・「大学について」がメインになってしまっていると思うので、地域についてもっと重視してほしい。
・企業と連携した地域活性化に本当に意味のある講義。ビデオをひたすら見るような講義だと寝ている人も何人かは必ずいるのであまりよくないとおもいます。
・地域のことを知るだけでなくそれをどう活用していけばよいのかまで発展させる、または実際に集中講義等で活用する。
・大学と地域の授業の最初に放映していた映像の意義がよく分からなかった。
・これからは様々な分野の融合した知を生かしていく必要があるので、受講人数の制限は出来るだけ無くしていくべきである。
・もっと地域に関連付けたテーマで授業を展開してほしい。地域の特産物とか、土地柄と

か。

・鹿児島弁講座のようなもの。方言はその地域の文化であり歴史であるから、すたれてしまってはもったいない。県内でも様々な方言があるので、県外の人も県内の人も学べる。

・より専門性と地域性を結びつけた講義が必要だと思う。また共通教育の講義ではあまり専門性に偏りすぎないことも必要だと思う。

・宮崎大学のように地域におけるその分野の専門家を招いての講義やフィールドワークをもっと増やすとよりよいと思う。

・また鹿児島大が掲げている地の拠点から世界にというモットーに基づくような講義や取り組みがさほど多くないように感じるので、その架け橋となるような授業科目を増やしてもらいたい

・鹿児島の地域ごとの（例えば、鹿児島市や南薩、北薩、大隈、種屋久、奄美の区切り方、または、市町村ごとの区切り方）、産業や文化、伝統、地域の気質を比較しながら、鹿児島について、鹿児島を知らない人に、簡単に説明できるようになる。または、その土地に実際に行って鹿児島の各分野の（観光、産業、医療、伝統など）マップを作り、鹿児島県内や全国に発信する。

・桜島のこと、外国人観光客の生の声など、屋久島のことなど、もっと詳しく知りたいですね。せっかく鹿児島にいるわけですし。その知識は他の自治体や県でも生かせる部分が出来るのではないかなと思う。

・私は受講人数による抽選で外れ、まだ地域志向科目を受講できていないのですが、とても益になる講義だと思います。既存であるとは思いますが、防災学はこの地域或いは全土にとって役に立つと思うので推進していくと良いと考えます。授業方法に関しては、プレゼンや映像により過去の前例、教訓等を取り上げながら進めると為になると思います。

・現在開講されている与論島や屋久島に実際に赴いて実習を行う集中講義の形式で、もっと他の実習地を増やして欲しい。(特に島、現地 2 拍 3 日以上)

・生涯教育と高等教育の線引きができていないと思う。学生にとっては、地域というより、学術的な価値もしくは実務的な価値を与えた方が、のちのち鹿児島大学の貢献になると思われる。実際、都市部の大学生より就職活動でハンデがある分、より実務的で思考能力をつけさせることのできるような教科に力を入れたほうが、大学と個人のためになると思う。

・鹿児島県は観光客は増加したが、人口は減少傾向にある。近年、「地方創生」という言葉をよく耳にするが、私の身の回りには県外に就職先を求める学生も少なくない。そこで、より地域の仕事と密着し、地域のために働くという意識を高められるような授業科目があればいいなと考える。

・例えば、後継者がいないという課題を抱える農家に対して、その課題を解決するにはどうするか考えさせる。課題解決的な学習を取り入れ、地域の課題について考えることで、

自分が地域のためにやりたいことを見つけたり、地域のために働くというイメージをもったりできるかもしれない。

・また課題解決には、あらゆる方向からのアプローチが必要だと思う。そこで、共通教育で授業を開設し、異なる学部の学生で構成したグループの中で、それぞれの専門的な立場から、課題を解決するために自分にできることを考え、解決法を探る授業を提案する。

・実際の地域(離島や遠い故郷)に出向いて、積極的に地域を活性化するためのプログラムやボランティアがしたい！

・まず、現在住んでいる地域の特性について理解を深める講義を行う。次にそれらを活用しているいくつかの企業をゲストとして講義に呼び、どのように活用しているかを知る。それから自分たちなりの地域の活用方法を考えてもらう。（この時実際に自分たちに実現できるかは別とする）最後に講義で出たアイデアを講義全体で共有し、参加してくださった企業とも情報の共有を行う。受講者は地域についての理解が深まり、企業としても、自分たちの事業を知ってもらえる、また今まで考えつかなかったアイデアとであうことのできる可能性を得られる。受講者も参加した企業もお互い win-win な関係を築けるような講義ができればいいと思う。"

・インターンシップと授業を融合したような、長い期間で地域と触れ合い、考え、行動まで移せる授業があるといいと思う。

・共通教育科目で、鹿児島の学問の特徴を教えてくれる科目。鹿児島は馬の治療（獣医学）で有名だと聞いたことがあるが、そのような、「鹿児島の学問のここがすごい！」というのを、そもそもあまり聞いたことがない。鹿児島はこういう研究が進んでいるというのを、様々な学部の学生が参考にできるような形で紹介して欲しい。

（２）　教員に対するアンケート調査結果

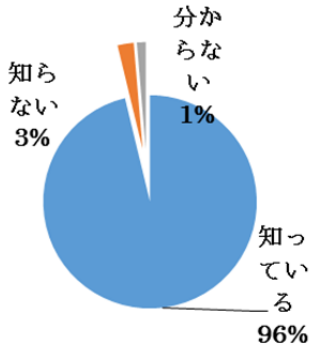
問１　あなたの所属についてお教えください。

問1　あなたの所属についてお教えください。

学系	総員	回答数	回答率
法文学系	85	40	47.1
教育学系	95	41	43.2
理学系	75	22	29.3
工学系	126	50	39.7
医学系(医学科)	228	81	35.5
医学部・附属病院	184	25	13.6
歯学系	89	39	43.8
農学系	78	58	74.4
水産学系	55	29	52.7
共同獣医学系	44	15	34.1
臨床心理学系	8	8	100.0
司法政策学系	10	3	30.0
学内共同利用学系	73	40	54.8
計	1150	451	39.2

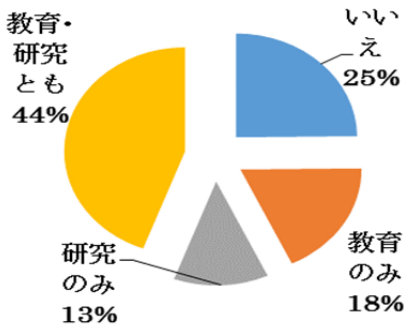
問２　鹿児島大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。

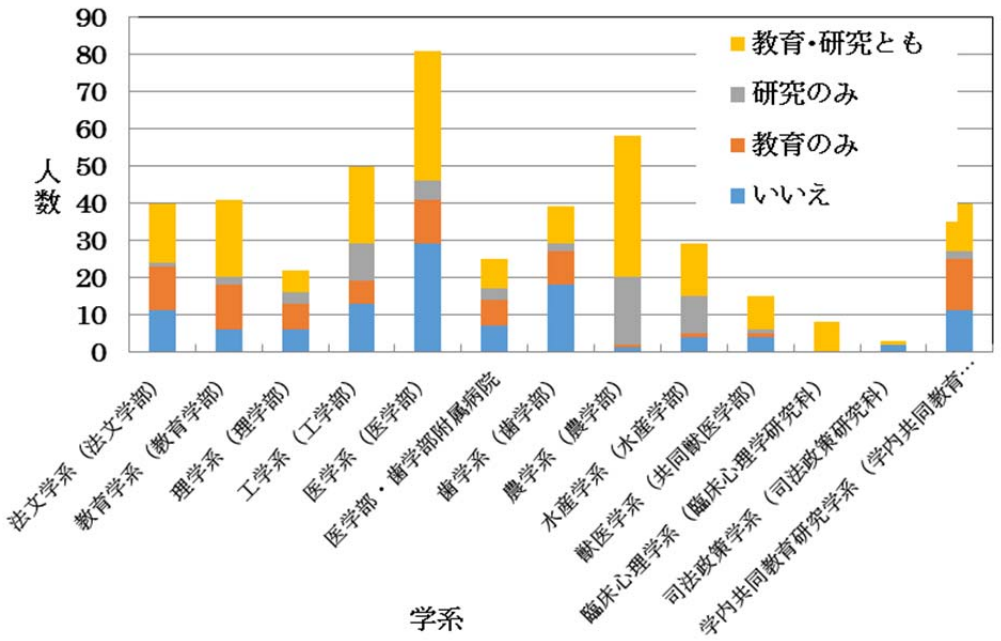
問2　鹿児島大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。			
知っている	知らない	分からない	合計
434	11	6	451



問３　「地域のための大学」として、地域を志向した教育・研究に参加していますか。

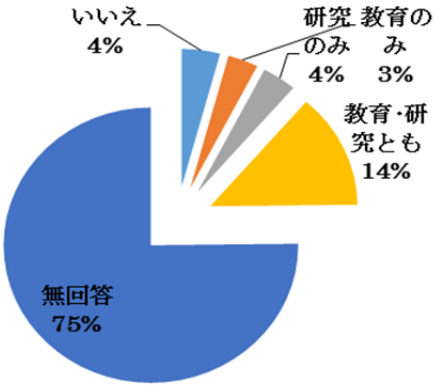
問3　「地域のための大学」として、地域を志向した教育・研究に参加していますか。				
いいえ	教育のみ	研究のみ	教育・研究とも	合計
112	82	57	200	451

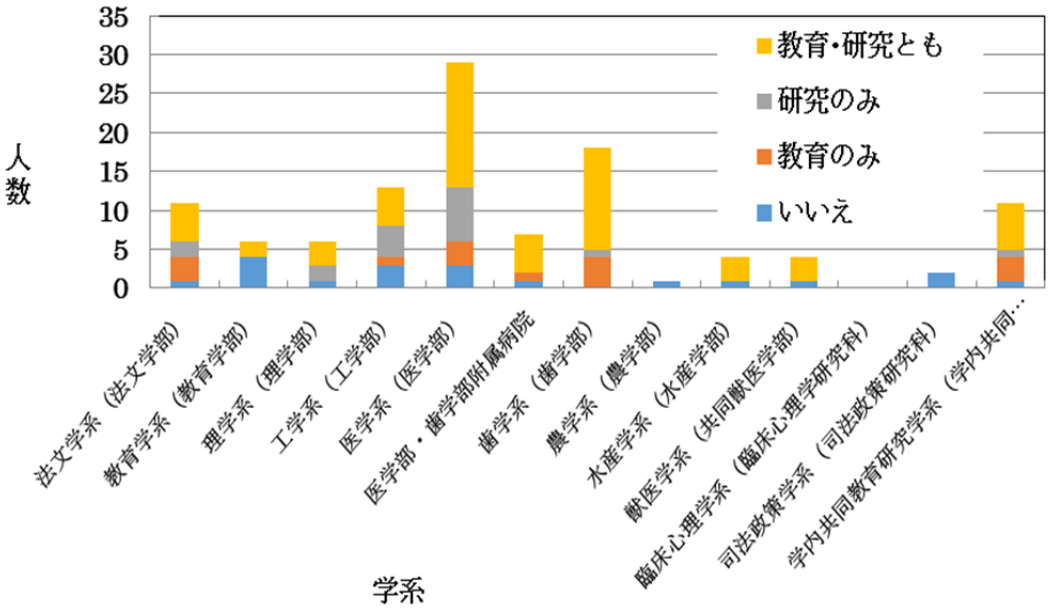




問４　「地域のための大学」の一員として、今後地域を志向した教育・研究に参加したいと思いますか。

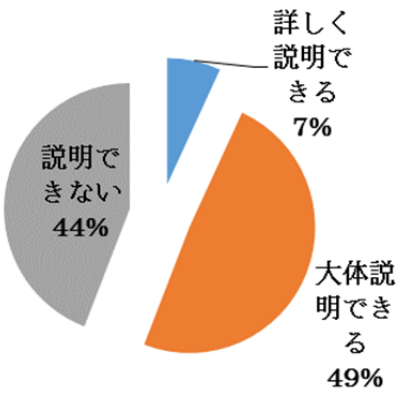
問4 「地域のための大学」の一員として、今後地域を志向した教育・研究に参加したいと思いますか。				
いいえ	教育のみ	研究のみ	教育・研究とも	無回答
19	15	17	61	339

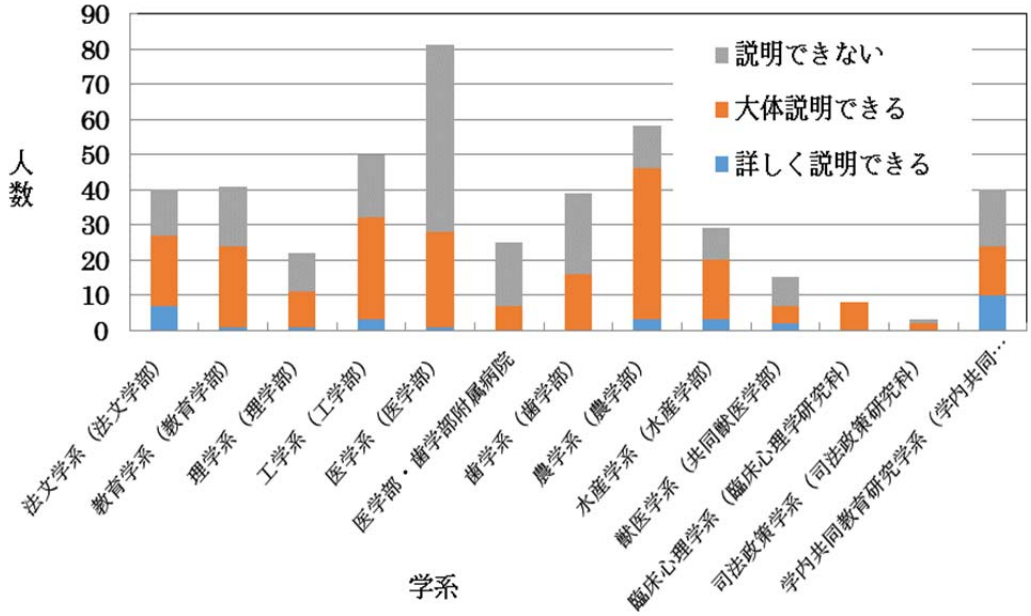




問５　鹿児島大学の COC 事業（あるいは COC 活動）について学生に説明できますか。

問5　鹿児島大学のCOC事業（あるいはCOC活動）について学生に説明できますか。			
詳しく説明できる	大体説明できる	説明できない	合計
31	221	199	451





問６　鹿児島大学の COC 事業（あるいは COC 活動）に期待あるいは要望等があれば自由に記述してください。（全件記載）

【法文学系（法文学部）】

・常々、「Center Of Community センター」という名称はどうかと思っている（センターのセンター？）。プログラム終了後で構わないので、名称についてはご検討いただきたい。

・地域と大学とのコーディネーターの役割を担う職員が不足しているのではないでしょうか。

・「地域のための大学」という意味を、地域特化の教育・研究と狭く解釈するのではなく、地域にこそ求められる多様な視点や幅広い知見の獲得や還元という形でさらに広く考えていただければと思います。

・看板は掲げられたものの、本学全体として積極的に地域に関わっていこうという熱意が個々の教員まで浸透しているのか疑問である。地域（地方自治体等）としては、現在抱えている様々な個別課題に対して本学の中に答えを持っている、あるいは一緒に考えてくれる人材を教員又は学生に求めているところであり、本学に対して課題を投げかけたものの、受け取った大学側が対応を躊躇しているようでは、地方が失望してしまうのではないかと危惧する。

・教員はもっと地域のためにやっていることがあるはずなのに、それが果たして評価対象になっているのかが気になる。まあ、その種のことはこの手の事業とは関係なくやるということでいいのかもしれないが。

・幕末・維新期以外の時代の鹿児島の歴史・地理に関する研究・教育を行うことで、鹿児島の教育・観光などに役立てることができる。

・離島部の調査・研究も重要であるが、県本土部にも目を向け、人口が減少する地域で調査・研究・教育を実施すべきと考える。
・対外的な情報発信が足らないだけでなく、学内向けの情報発信もまったく足らない。また、本来なら大学スタッフ全員で、対応すべきテーマだと思うが（それぞれの役割に、一定の差はあって当然だと思うが)。
・COC 事業と COC+事業との棲み分けあるいは摺合せについて教えてほしい。
・特定の人が参加しているという印象しか受けない。多くの研究者が参加できる雰囲気づくりと態勢が必要である。

【教育学系（教育学部)】

・何がしたいのか，さっぱりわかりません.
・事業自体「予算の再分配機能」の印象が強く、真に「地域志向」かどうか疑問がある。
・自分自身は元来「地方大学の役割」を認識し、授業・教育・研究ともに精力的に活動してきたつもりである。これは予算がなくともささやかな努力で可能である。
・本事業は中山間地域、多離島という鹿児島県の現実をどの程度活かした事業といえるのだろうか。
・願わくば「地域志向の〇〇」という学内教職員・学生の生の姿を広く大学 HP などで発信していかんことを。
・地域に密着した身近な活動にとりくむ教職員・学生は多いと思います。
・教育・研究のみならず、身近なささやかな取り組みを発信していくことが大切な気がします。
・地味な画でも組み合わせれば「立派な絵」になります。これが今の鹿大に足りない点だと思います。
・大学を核にした、地域との一体感をさらに演出できる工夫（たとえばイベント等）を展開できたら。
・研究及び教育のシーズは掘り起こせば、大学内にいろいろあると思うので、それらを調査しとりまとめて公開してほしい（既にしているかもしれませんが)。
・民間から連携や協力を得ながら、いい加減な活動をしたため信用をなくしていった研究者や組織を多く見てきました。
・地域のために真に喜ばれる活動を期待します。
・事業推進のための予算獲得を全学で戦略的に進めてほしい。

【理学系（理学部）理学系（理学部)】

・COC 事業について、農学部中心になりすぎているように感じる。
・「地域」という言葉の対象となっている人々の声（多分鹿児島県民）が全く聞こえてきません。その人達が大学に対して何を期待しているのか（そもそも大学に対して期待しているのか)、それらの意見を組んで最適な貢献法を模索すべく、研究分野を超えた情報・意見交換が必要なのではないでしょうか？

・これからも地域に根ざした教育・研究を積極的に進めていただきたいと思います。
・「火山と島嶼を有する鹿児島の地域再生プログラム」の内容だけでは、参加できる教員は限られます。COC センターと各教員とのコーディネートが必要だと思います。
・COC の研究経費公募に応募し残念ながら不採択となりましたが，授業運営への協力を求められました。採択された者に対してなら分かりますが，全くの無償労働を求めるのは極めて問題です。COC は外部資金による事業であり，各部局教員の本務ではありません。ただでさえ運営費交付金削減により各部局が疲弊しているにもかかわらず，その人的資源を無償で利用しようとする行為はコンプライアンス上も問題があると思われます。学内では，例えば他学部の講義を担当する場合はその対価が学部間で支払われています。他部局の人的資源を搾取するような行為は厳に慎み，規範を守る組織として発展されることを願っております。

【工学系（工学部）】
・「地域のための」で内向きの小さな目標を設定するのではなく、地域から国に、世界に発信するような大きな目標で活動して頂ければと、思う。
・地域に貢献する大学として COC 活動がその役割を果たすと考えられるが、外からみれば具体的にいかなる活動を行っているかが見えにくい。単なる、セミナーや講演会を行うたぐいのものであるならば、これまでの大学における産学官の活動とおなじである。
・鹿児島大学のミッションに合致した重要な活動なので、是非推進してほしい。
・研究教育のサポートとして裏方業務を行ってほしい。
・研究科や学部・学科、産学官連携推進センターはもちろんですが、理工学研究科で進めている地域コトづくりセンターや防災センターなどとも有機的な繋がった活動形態を構築されることを望みます。
・この成果は具体的にどこに、どのような形で社会に反映されるのでしょうか。COC 事業は、鹿児島県の政策に反映されるのでしょうか。
・大学は特許、論文の形で成果を社会に出すことができます。しかし、その先、具体的な生産工場に当たる現場、あるいは実践の場を持ちません。すなわち、大学の限界を感じています。社会とのリンクの方法を具体化しないと、ことが前に進まないと感じています。この点、よろしくご検討ください。
・全学的な取り組みなので、教育の負担等が一部の教員や部局に偏らないように、ご配慮いただきたい。
・無茶な要望を教職員に振りすぎる。唐突に依頼がくるのは困る。研究費採択・不採択の基準が不透明。研究費が採択された際の duty が多すぎる。Web に掲載されている研究成果報告書の画質が悪すぎる。きれいに掲載できるように画質を確認したにもかかわらず、このようなことがあっては困る。研究の質を落とされた気さえする。このような理由から、COC に協力することには、「もう、うんざり」という印象なので、改善してほしい。
・これまでの地域とのやり取りの中で上がって来ている課題についてまとめたものが，W

ＥＢ等からすぐに見える場所にあるといいと思います。

・海外の成功例も含めて、学生、教員に周知して、COC 事業に前向きになるようしないと、大きな流れができないように考える。

【医学部・医学系】

・各学部や分野において、鹿児島県出身者（もしくは鹿児島大学出身者）で、県外や海外で現在、活躍している方々に講演して頂き、異職種間の交流や、外から見た鹿児島の良さを改めて知ってもらい、卒業後の進路等におけるリレーションシップ作りに役立つような内容の企画を行うのはいかがでしょうか？

・カリキュラムの中で地域と連携した教育の展開を推進し、資金的援助もして欲しい。

・学生が東京などで開催されている特別な研修やセミナーに参加する費用を補助してくれる事業を実施して欲しい。海外研修には補助がありますが、国内の研修にも補助してもらえると学生は、様々なところで他大学の学生とも交流し、学びを深めると思います。

・他学部間との共同活動へ調整して全学を挙げた取り組みを展開して欲しい

・地域医療や防災における医療面での取り組みを評価し、中心に据えるべきである。

・これまでは、学部間あるいは学部内であってもいわゆる縦割りの組織となりがちで、横断的な取り組みは少なかった。

・地域産業、地域災害や地域医療への貢献において、横断的な取組と教育は必須である。国の行政機関をみても、大規模災害等、従来の組織構成では立ちいかなくなっている。大学人がいかに地域と情報交換・共有が可能で、問題を認識し、ともに取り組めるか、人材に負うところが大きいと考えられる。

・桜ヶ丘キャンパスでも何かイベントを開催してほしい。そうでないと、こちらの教員、学生、職員は知る機会すら少ないと思う。

・学部を横断できる越境集団としてのロールモデルとしての存在を期待しております。

・あまり、存在自体を知りませんでした。すいません。勉強させていただきます。

【医学部歯学部附属病院】

・各学部、組織における FD や講演活動などを行ってほしい

・自分の専門領域について、鹿児島大学病院以外の職員（医師、保健師、看護師、訪問看護ステーションの職員等）に対して教育活動は行っており、それをもって「地域を志向した教育」に取り組んでいると考えています。

・多くの離島を抱える鹿児島県であるが、離島での医療や介護には地域格差がある。地域住民が地元で安心して暮らせるために、地元住民を巻き込んだ格差是正をしてもらいたい。

【歯学系（歯学部）】

・高齢化率が全国平均で３％高い鹿児島（南九州）においては、島嶼を含む地域医療と福祉活動を大学や中核病院、老健施設などとの連携のもとで展開することが肝要です。そのためニーズを十分に調査の上、医療・福祉関連従事者をしっかり増員すること、医療・

福祉施設を充実させること、また医療・福祉関連従事者の居住アメニティを向上させること、これらはいずれも重要事項と考えます。これには多くの経費が必要ですが、これを断行しない限り、簡単には変わらないと思います。

・「変わる、変える」意識をどこまで皆で共有できるかが、ターニングポイントになると考えます。執行部次第と思います。

・学生なら、全学生の 1.2 年時のカリキュラムは把握していませんが、授業等（少しの時間でも）、教職員ですと、参加しやすい時間での講演会でアピールされたらいかがでしょう？

・本事業の内容をさらに分かり易く学外に発信されることを期待します。

・活動状況と成果を教えてください。

・地域のための大学であることは非常に大事ですし，地域のために活躍してくれる学生の育成に，微力ながら協力できればと考えています。

・日々の大学活動の時間を割いて本活動に参加することが、時間的に難しいです

・地域特産品のアピールになるような基礎研究をもう少し推進されたらいかがでしょうか？実学的なところがないと、短期的な話題に終始してしまうことが多いと思います。

【農学系（農学部）】

・大学 HP トップから COC センターへダイレクトに繋がるリンクがないので、かなり見つけにくい。→　COC を周知する機会をかなり逸していると思われる。

・学生に説明するときに、いろいろ地域との関連でやっているという説明だけでなく、体系だてて、整理して説明する必要があると思います。

・人員、予算面が減少する中で大学単独でできることは限られていると思います。私個人でも研究室の教員の補充が無いため、一般的な教育を行うだけでも大きな負担です。それに加えてＣＯＣ事業に加わることは、他の教育研究レベルの低下につながることも否めません。従って、他機関と有機的な連携をとり、本当に大学がすべきことのみにポイントを絞ることが本事業が成功する鍵であると考えます。総花的な事業では、当初は成果が上がっているように感じられても、本来の意味での成果は出ないものと思います。

・COC 主体で地域関連の教育活動を推進されるのは必要かつ大変結構なことだと思いますが、例えば今回の共通教育改革では教育センター会議や各部局の関連教員等、関連各部門の頭上で話が決まった感が強く、釈然としない感じが残りました。今後は関連部門ともう少ししっかり話し合いをして頂ければと思います。

・具体的な成果をどのように挙げていくのか、本活動に対して、最低でも１０年単位程度の人的、予算的バックアップが必要と考える。

・自分が所属している部会以外の活動については全く情報が入ってこないので、他にも大学内でどういう取り組みをしているのか知りたい

・全ての学部に共通することだと思うが、「地域志向の教育」を謳って参集を呼び掛けると、いつもお馴染みの（同じ顔ぶれの）教員が集まる傾向にある。地域貢献などは国立大学

法人ではやらなくて良い・・・私立や短大こそがおやりになれば・・・と未だに思っている鈍感な教員がまだ少なからずいるように見える。こと鹿児島大学については（日本列島における位置づけから鑑みても)、全員が何らかの形で地域連携に関わる教育・研究を行うことを Duty とするようなシステムを構築できないものか？・・・COC の部会長である自分にも責任は大いにあると自省しているところであるが・・・・・

・グローカル、進取の気風などのスローガンのもと、個人レベル、研究室レベルが多いかもしれませんが、これまでも地域を施行した教育・研究は行われてきました。これらを評価して、発展的に拡大を促すことができると、新しいものを立ち上げるよりは、スムースな地域貢献・地域志向教育ができるだろうと思います。

・学生単独でも現地で活動できるような仕組みを作ってもらいたい.

・地域活動と学生の教育を連携させるにはフィールド、インターンシップなど現場を体験する機会を与えることが重要と考えます。

・私は、食品企業に協力いただき、食品加工現場での短期（２～３日）の実習作業などを行っていますが、移動、宿泊などの補助または、多くの企業から資金と機会を提供いただけるプログラムをもっと拡張、宣伝していただけると助かります。"

・昨年度はかなりの全学的な予算措置が取られたと聞いている。全学的に推進するのであれば、継続的な予算措置が必要ではないか。

・大学のシーズとのマッチングも重要ですが、地域のもっている有用な資源のライブラリー化などがあれば、そういう観点からのマッチングもいけると思います。そういったデータ構築への動きがあればぜひお知らせください。

【水産学系（水産学部)】

・予算が一部の教員に偏って配分されている印象が強い。

・予算配分を受けた教員が責任をもって教育と研究を進めていただきたい。"

・ＣＯＣの理念自体は正しいものだと考えるし、そもそも当たり前のことだと考える。

・地域社会に貢献することは、地方大学としての責務だろう。当大学の 1 つの目標として掲げることに賛成である。しかしそれを義務化したり、教育面で全学生に押しつけることは正しくないのではないか。特に学生教育においては、学生が学ぶべきことは学生自身が自由に選択すべきものだと考える。学生教育と地域内での就職と結びつける「地域就職力」のような強引な概念は、荒唐無稽でナンセンスであるだけではなく就職先に制限を加えるパワハラの要素も含む。

・教育、職業選択や移動の自由を制限するような目標を教育に持ち込むことは許されてはならないだろう。それらはCOCの理念よりもさらに基本的で上位に位置する目標である。COC の理念は教員が当たり前のモラルと幅広い社会性を持って職務に当たれば、全ての活動に於いて自然に実現されるだろう。

・競争的資金や科研費などで研究費化してないが、地域に密着した内容で研究を進めいる方がおられると思います。そういった方々の研究も拾い上げてサポートしていただけれ

ばと思います。
・継続する事に意味があり、根付くと思われます。
・個々の構成員が従来から行ってきている地域貢献と COC の取り組みとの差を理解していないので、相違があるのであれば知っておきたい。
・私は第 1 次産業関係の教育研究フィールドにいるが、地域特性を理解して、特に国の助成事業を企画できるような人材の育成が大切ではと考えています。
・COC 事業の趣旨は特に地方大学にとっては重要と理解しています。"

【獣医学系（共同獣医学部）】

・島嶼（屋久島、奄美大島、徳之島、与論島）を使った実習を行いたいのですが、ネックは交通費です。実習には全員を連れて行く必要はないと思いますが、実習内容等の成果発表を行うことを前提に興味を持って実習を積極的に行う選択された方への補助はあってもよいのではと思います。
・これまで教員個人の研究として行われてきた地域課題に関する研究活動が組織的に行えるような体制や窓口を整備してほしい。
・地域課題に関する学生の教育を現場で実施できるよう、実践面において補助や対応をお願いしたい。
・その成果が地域内に留まらず、グローバルに評価されることを期待する。

【臨床心理学系（臨床心理学研究科）】

なし

【司法政策学系（司法政策研究科）】

・司法政策研究科は設置当初から「地域に学び地域に貢献する」を理念として教育・社会活動を展開してきました。離島における法律相談実習や学内における無料法律相談、市内の中学校での法教育活動など、地域貢献をカリキュラムと結びつけた試みは多くの支持を受けています。平成 28 年度末で研究科の廃止が予定されていますが、これらの活動は、全学組織として設置された「司法政策教育研究センター」が承継していく予定です。COC センターにおかれましても、学内におけるこれら既存の、そして質の高い地域貢献型教育活動をぜひとも認知していただき、連携・協働を模索していただきたく存じます。

【学内共同教育研究学系（学内共同教育研究施設等）】

・口永良部島の噴火や熊本の地震など，地域のしくみを破壊する災害も近年多発している。来るものは防げないものなので，防災でも復旧復興にかかわる取り組みを強化してほしい。
・「火山と島嶼を有する鹿児島の地域再生プログラム」について。「火山」、「島嶼」に関わらない研究者の方が全体としては大多数だと思うが、そういう人びとをどう取り込むのか、取り込む必要はそもそもないのか。関わっていない側からすれば自分には関係ないこととしていればよいのか、良くわからない。
・「全学的な取り組み」のはずであるが、認知度が低いような気がします。執行部の具体的

な取り組み（指示）が必要であると思います。是非、よろしくお願い申し上げます。

・鹿児島大学が全学的に行っている様々な地域貢献・社会貢献活動に関する情報が COC センターに集約され、COC センターが本学の地域貢献・社会貢献についての対外的な広報を効果的に行うとともに、学外からの照会に効果的かつ迅速に対応できるようになることを期待する。

・地域と連携した教育に関するコーディネート機能がほしい。人文学系・社会科学系では研究での地域連携はニーズが限られており、むしろ教育で連携していった方が良いのではないか。

・学内での周知が徹底され、大学全体で事業が活性化するとよいと思います。

・COC+と連携して鹿児島大学の教育改革に資するプログラム開発をしていきたい。

・地方大学の役割として、地域貢献は重要なことだと認識しております。本年度から着任いたしましたので、今後できることから、少しでも参加し、お役に立ちたいと思っております。

・提供している教育プログラムを全学支援のもとに行うようにしてほしい。

・地域マインドをもって、学ぶことは重要で、グローバルな場でも、自らの母体や地域について具体的に語ることが求められます。地元や鹿児島に就業できることで自らをさらに伸ばし、地元や就業先に貢献していくものを多く育てていけるよう気掛けていきたいと思います。

・鹿児島大学が地域貢献を行っているのは、とてもいい事であると思う。

・もっと鹿児島大学内での認知度を上げる必要があると思います。

・HP を見なければ、COC が何の略なのかも分からないし、なかなか外部の人に説明できるところまで行っていない教員も多いと思います。

（３） 職員に対するアンケート調査結果

問１　あなたの職種についてお教えください。

問1　あなたの職種についてお教えください。

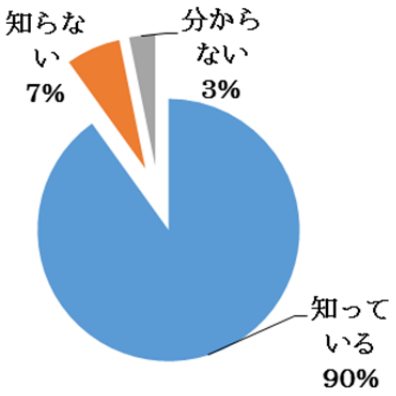
職種	総数	回答数	回答率
事務系	436	211	48.4
技術系	141	49	34.8
その他	4	＊22	550.0
計	581	282	48.5

注）＊職種その他との回答者

問２　鹿児島大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。

問2　鹿児島大学が、「地域のための大学」として地域に関する教育・研究・社会貢献活動を推進していることを知っていますか。

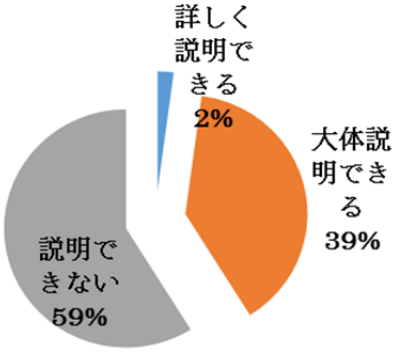
職種	知っている	知らない	分からない	計
事務系	196	11	4	211
技術系	40	5	4	49
その他	18	3	1	22
計	254	19	9	282

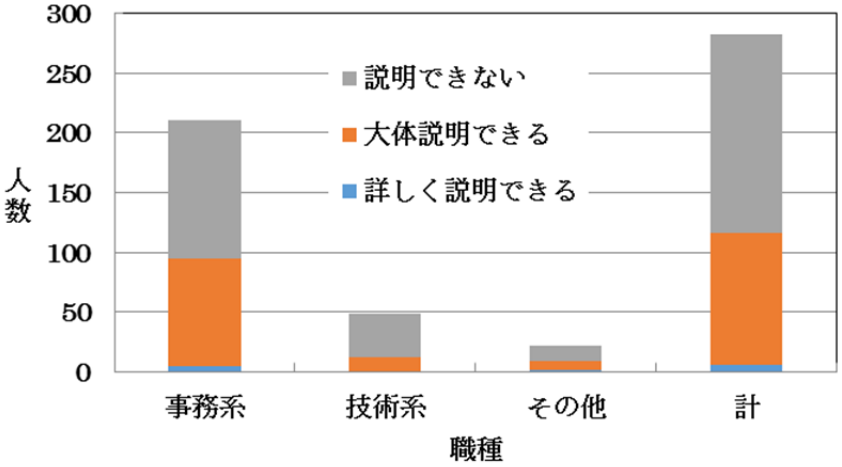


問３　鹿児島大学の COC 事業（あるいは COC 活動）について学生に説明できますか。

問3　鹿児島大学のCOC事業（あるいはCOC活動）について学生に説明できますか。

職種	詳しく説明できる	大体説明できる	説明できない	計
事務系	5	90	116	2
技術系	0	12	37	
その他	1	8	13	
計	6	110	166	2





問４　鹿児島大学の COC 事業（あるいは COC 活動）に期待あるいは要望等があれば自由に記述してください。（全件記載）

【事務職員】

・地域住民の具体的な要望に組織として応えることができるシステムを作るべきである。

・本学が地域の知の拠点として発展し、地域貢献に大きく寄与することを期待しております。

・COC 活動については、文部科学省から採択していることは知っているが、活動そのものが見えない。目的・方向性が示されているのであろうか、示されているとするならば、わたしにとっての感心事項ではないのであろうか。今、何にしても人口の減少が不景気等に影響しており、島嶼についても人の問題が大事だと思う。人が増えれば、全て解決できるような気がしてならない。

・他大学等との連携による地元の課題解決や地域の発展において、主導的に取組を推進し、唯一の総合大学としてその実力を発揮して欲しい。

・桜ヶ丘地区との連携が弱い気がします。

・予算執行についても、単純に COC 事業関係教員へ再配分するだけでは成果が薄く、額の確定調査等でも苦労すると思われますので、センターの機能強化を検討すべきと考えます。

・教育・研究・生涯学習などにおいて講師派遣や共催行事を行うことにより，自治体や企業との連携をより強め，地域に根ざした総合大学としての機能を充実させてほしい。

・COC 事業とＣＯＣ＋事業の違いが簡潔に分かる説明資料があれば助かります。

・事業内容については、新聞等でその都度、掲載され、活動をされていることはよく理解している。ただ、「地域のための大学」として、現在このようなことを行っており、地域に関する教育・研究・社会貢献に寄与している等、進捗状況（現在、ここまで達成しているなど）を頻繁に、情報発信してほしい。

・鹿児島県内の離島や過疎になっている地域と連携を取って鹿児島県の活性化の拠点になってほしい

・地元企業に就職し，活躍している本学卒業生（あるいは県内大学ＯＢ）から、在学生向けの説明会（成功例、苦労話）や座談会を設けてはどうでしょうか。

・大学が行っている教育・研究・社会貢献活動の認知度も低い

・地域のニーズ等のワンストップ窓口としての役割を COC センターがより果たしていただけるとよりいいと思います。そのことが地域にも情報共有されていることも必要かと思います。

・COC+事業との境界が不明瞭。対外的にどう見えるかは別として、同一の学共施設への集約により学内の業務量を低減する必要があるのでは。また、地域志向研究プロジェクトの集約については事務局研究協力課業務との人的、財務的資源配分が適切であるか疑問。

・学生にとって魅力ある就職先の創出に関しては、本学の努力より地元企業の（給与を主

とした）待遇改善が肝要かと思います。したがって、本学から地元企業へさらに努力いただくことを促すべきかと思います。

・出前授業や地域における講演など社会貢献活動のリクエストが多い教員や研究室は、優秀であるが故に教育研究活動そのものだけでなく、執行ルールが厳格で研究以外の事務作業が多い外部資金も多く獲得し大学に貢献する一方で教職員や研究室配属の学生の負担は多大なものである。一方、授業担当コマ数は少ない上に外部資金の獲得はない、科研費の申請さえしないといった、鹿児島大学の執行部や他部局教職員に客観的な数字で自分の貢献度を全く説明できないような教員も見受けられる。そうした教員にこそ社会貢献の面で「出前授業を毎月？回以上実施せよ」といったノルマを学長や担当理事が命令するなど、優秀な教員にばかり業務が偏らないように指導力を発揮してほしい。（社会貢献活動に関するマンパワーは、あるところにはあります）

・今回のCOC事業について、果たして全教職員が内容を十分に理解しているか疑問である。全学的事業である以上、各部門が連携して取り組む必要があると思われるが、連携体制が見えてこない。積極的な広報（学内、学外）も必要では。

・地域に誇りを持ち、愛着を持つ学生が育つのは良いことだと思います。

・どのような成果が出るのか楽しみです。

・学部の協力が必要なときは、なるべく早めに委員会等でお知らせいただけると助かります。（昨年度は、共通教育改革が同時進行だったこともあり、混乱と負担が大きかったです）

・熊本地震以降、鹿児島においても地域防災の関心が高まっている。人口60万を抱える鹿児島市から僅か4kmのところに活火山の桜島がある。火山と島嶼を有する鹿児島を活性化できる事業（現時点の優先度としては、防災、観光でしょうか。）の地域課題解決、地域活性化の拠点として継続的に情報を発信して頂きたい。

・人口増加の施策、例えば地場産業の世界的な発展に寄与できるよう、鹿児島のブランドを地元の宣伝下手の住人に変わって他県・他国にアピールできる手法を考えていただけると有り難い。

・大学ＣＯＣとは、大学を地域コミュニティの中心として、まちづくり、大学づくりを・・・と謳っておりますが、一番大事な「人づくり」が抜け落ちておりますので、これらのことを念頭におきながら、地域の声に耳を傾けること、工夫すること、意欲的に取り組むこと等がなくては、大学の機能強化を推進することは出来ないと考えます。人を動かすこと、理解を深めること、連携を推進すること等については、いくら教えても、活字等で理解しても難しいものがあります。大学の教職員の中には、人間力・展開力・行動力に長けた者、社会に貢献できる架け橋となる人材がいるはずです。その力も発掘し組織力を最大限に高揚させ、世の中が認める鹿児島大学として急ぎ足で進んでいかなければならないと考えます。どこの大学でも達成できる中庸ではなく、どこにも真似ることのできない地域コミュニティの中核的存在としての大学機能強化を確立いたしましょう。

・かごしまＣＯＣセンター設置については知っていたが、教員が関係するものと思っていたため特に注意しておらず、具体的な事業についてよくわかっていない。
・鹿児島の特長（温泉、食事、環境）を活かして、多くの人が鹿児島に集まるような活動（観光だけでなく居住、就職等も含めて）を期待しています。
・学生に説明できるように、COC のことをよく理解したいと思います。
・地域に有為な人材を多数輩出できる学内外の体制整備を期待したい。
・関係する業務がない病院職員には、このような事業を知る機会すらありません。
・鹿児島に働ける場が増え、本学の卒業生が地元で働き、過疎化に歯止めがかかれば良いと思います。

【技術職員】

・大学の地域貢献活動が鹿児島県内に広く伝わり、存在意義が増すことを期待しています。
・職員への周知が必要であれば、さらに積極的な広報をお願い致します。
・学生が地域のメッセンジャーと慣れるよう、在学中の地域での活動を単位化して全員参加型で実施してほしい
・ネットで調べると、各研究課題名ごとの研究内容は知ることができる。しかし、各研究課題名ごとの予算を知ることができない。また、各研究課題名ごとの論文の一覧、取得特許の一覧がなく「成果」を知ることができない。研究内容だけでなく、それらも知ることができるようにしたほうが良い。
・学生、職員に周知する機会を増やし、広報活動を積極的に行って欲しい。
・適切な食事は疾病予防に必須です。しかし、鹿児島県内に栄養を専門とした研究者、研究機関がないために、鹿児島県民を対象にした栄養摂取調査および改善のための実践的研究が皆無です。ぜひ、鹿児島大学を中核として、栄養研究ができる組織、さらに栄養研究ができる人材の育成をお願いしたいです。

【その他】

・教員へのアピールが必要なのではないでしょうか。
・COC センターの活動について学内への周知をもっと積極的に行ってほしい。
・地域の課題を解決できる研究を見出し、育てることが必要だと思う。
・今後も、地元の大学として地域の将来を見据えて、社会で必要とされる専門知識や一般知識などを提供したり還元したりすることがうまく機能するよう要望します。
・鹿児島大学の社会貢献活動として、大変重要であり、地域からも大変期待されていると思います。ただ、具体的な内容があまりよくわからないので、ホームページを充実させて、学内外に活動が分かるようにしていただきたいと思います。
・地域貢献を推進する組織として期待しています。
・事業予算はともかく、COC+と一体化が望ましいと思われます。
・地域格差は否めない事実であると考えています。私は専門職の資格取得後のスキルアップ研修などに苦慮しています。この活動を通して解決の光が見えるとうれしいです。

・もっと広報を活発にやって欲しい。学内にいてももう１つ良く分からない。そもそも、COC は何の略かも分からないし、聞かれても説明できない。世間に広める前に大学内での認知度を上げることが肝要かと存じます。